

令和4年度諫早市ACP市民講演会アンケートまとめ

日時：令和5年3月4日（土） 14:00～

会場：諫早市立たらみ図書館 海のホール

講師：土屋 知洋 先生（ちひろ内科クリニック院長）

講演：アドバンス・ケア・プランニング -思いのかけらを紡ぐ-

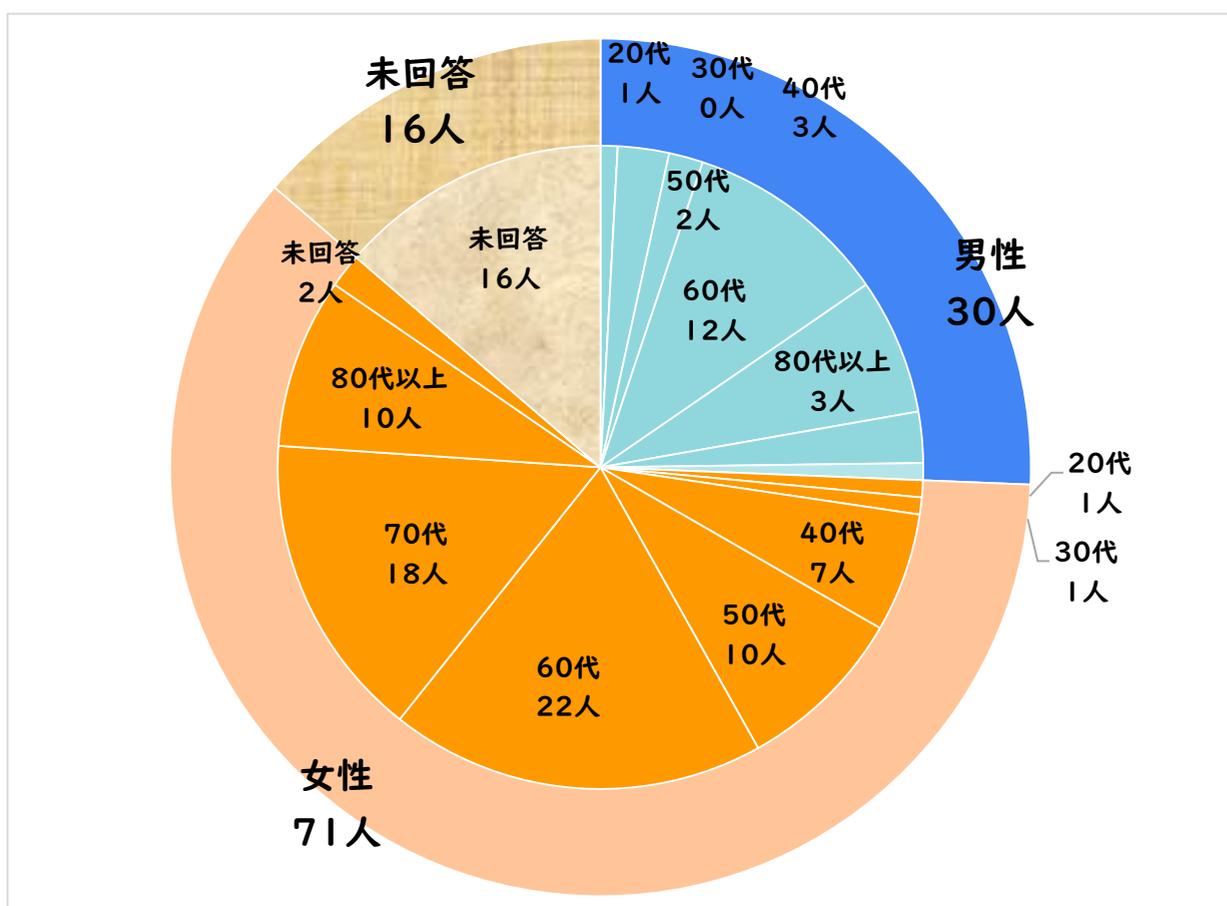
実践：私の思いを書いてみよう（濱職員説明）

参加者数：119名

1. アンケート回答者数

(単位:人)

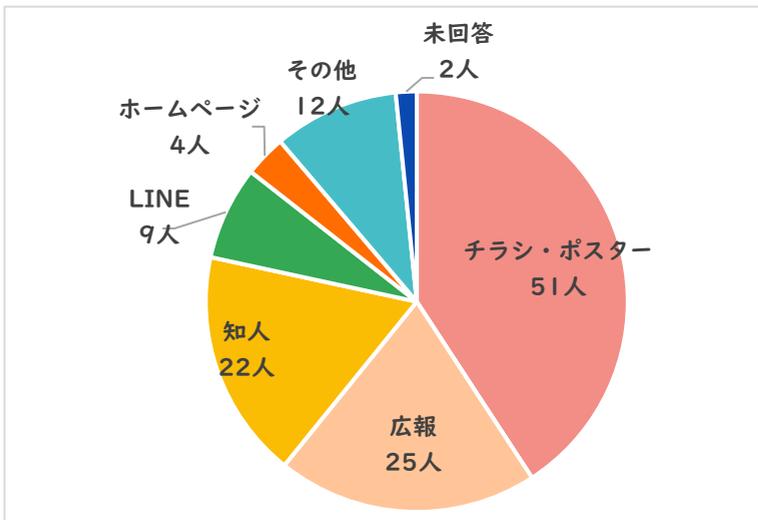
性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	未回答	合計
男	1	0	3	2	12	8	3	1	30
女	1	1	7	10	22	18	10	2	71
未回答	0	0	1	1	2	11	1	0	16
合計	2	1	11	13	36	37	14	3	117



2. 今回の講演会を知ったきっかけ（複数回答あり）

（単位：人）

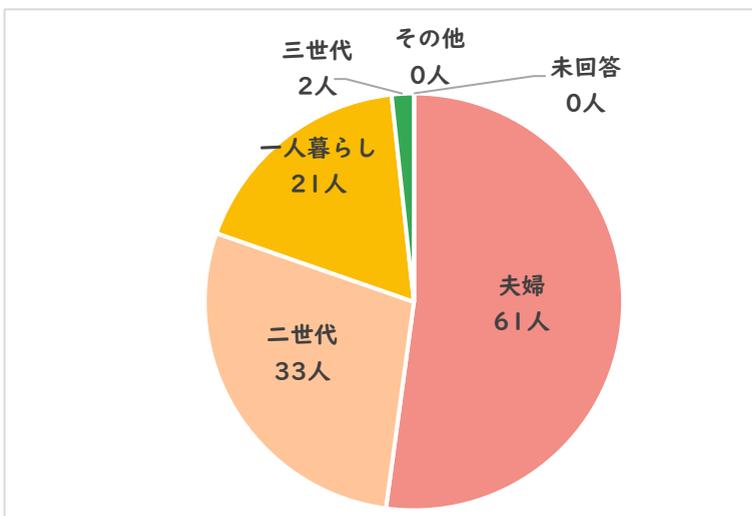
チラシ・ポスター	広報	知人	LINE	ホームページ	その他	未回答
51	25	22	9	4	12	2



3. 現在、誰と住んでいますか？

（単位：人）

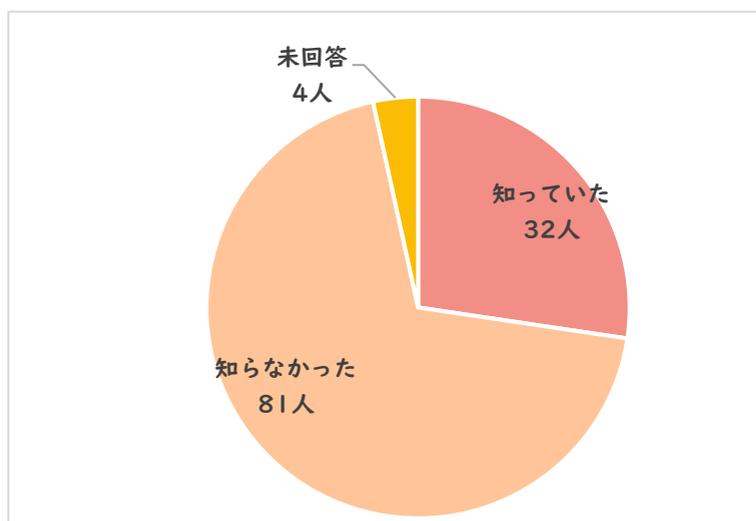
夫婦	二世帯	一人暮らし	三世帯	その他	未回答
61	33	21	2	0	0



4. 本日の講演会よりも前からACPを知っていましたか？

（単位：人）

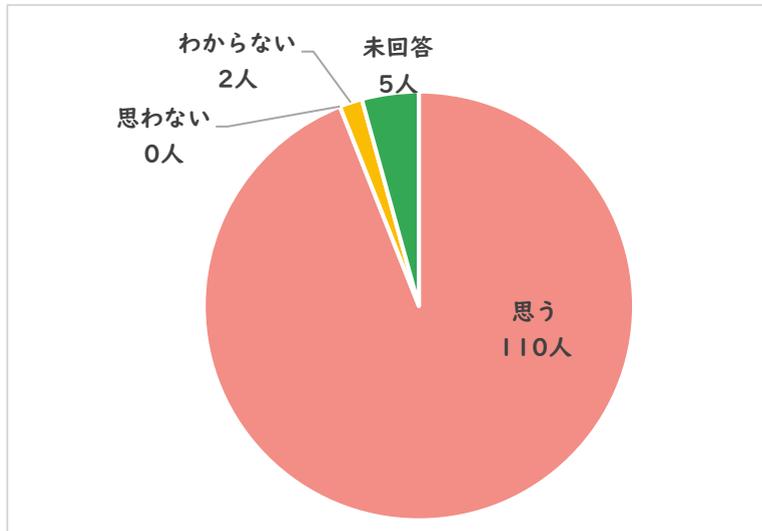
知っていた	知らなかった	未回答
32	81	4



5. ACPは必要だと思いますか？

(単位:人)

思う	思わない	わからない	未回答
110	0	2	5

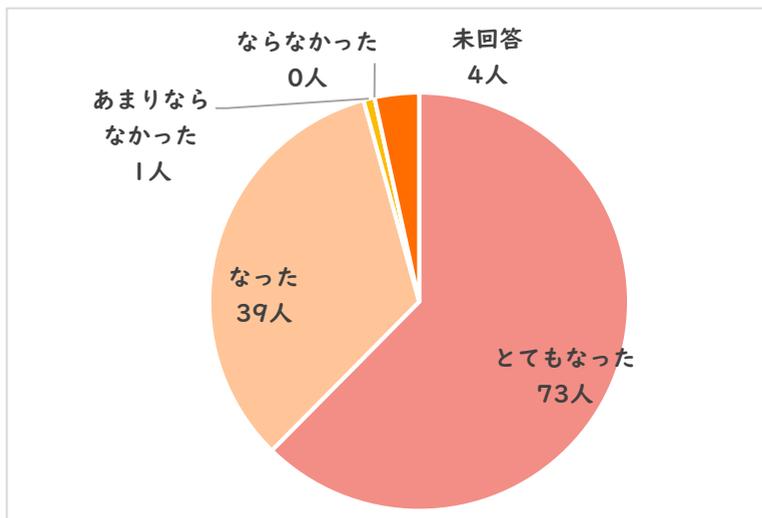


6. 本日の講演は参考になりましたか？

(1) 講演「アドバンス・ケア・プランニングー思いのかけらを紡ぐー」

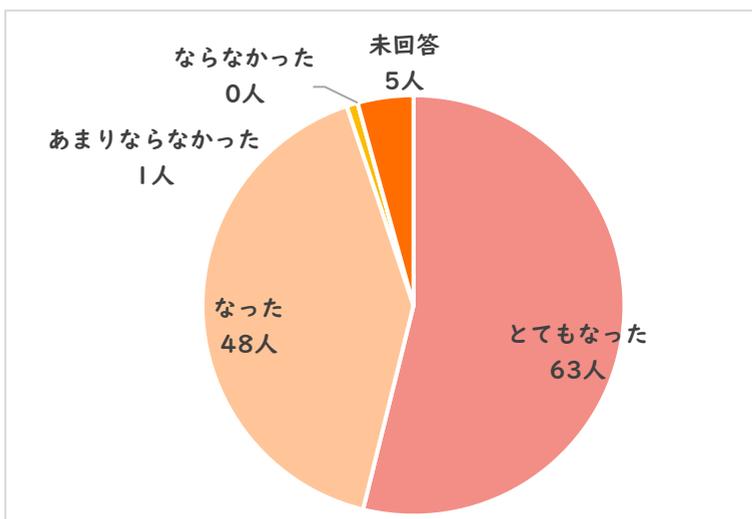
(単位:人)

とてもなった	なった	あまりならなかった	ならなかった	未回答
73	39	1	0	4



(2) 実践「私の思いを書いてみよう」 (単位:人)

とてもなった	なった	あまりならなかった	ならなかった	未回答
63	48	1	0	5



7. 本日の講演会についてご感想をお聞かせください。

- ・土屋先生のお話はとてもわかりやすく、お人柄が伝わる温かいもので、聞きやすかったと思います。市の説明もとても良かったと思います。
- ・参考になったので実践したいと思った。ちひろDrの話が具体的にお父様のことも入ってわかりやすかった。
- ・向き合うことを避けてきた議題であったが、とても大切なことだと考えました。今日からが始まりの一步ですね。ありがとうございました。
- ・良き講演会を催して頂いてありがとうございました。とても参考になりました。ACPとても大切だと思います。この冊子もわかりやすくて良かったです。長崎市同様、諫早市・医師会協議して進めてください。館内寒かったです。
- ・初めてACPの研修を終えて大変為になり、家族にも今日の内容を伝えたいと思います。
- ・高齢の母が一人で住んでいるので、一緒に考えられれば…と思って参加しました。良いお話が聞いて良かったです。参考にします。冊子にも記入出来て本当に良かった。
- ・DVDが我が身のように思えて涙ぐみました。また機会がありましたら聴聞したいです。ありがとうございました。
- ・終末期の医療について、まだよく知らないことが多いので、機会がある時に知識として知っておきたいと思った。動画での救急搬送の場合や、家族が医師から治療の選択を迫られる場面など、臨場感があって具体的に遭遇する場面を想像できてよかったです。
- ・参加出来て良かった。元気なうちに広義でのACPをまずは家族と行うきっかけの講演会になりました。ありがとうございました。
- ・私の母の時は、最期が後1か月くらいかなと医師から言われ、その時家族と施設の方と医師で話し合いをしました。以前より母は延命はしないでと言っていたので、管などつけず人間らしく最期を迎えたいと言っていたのでその通りにしました。家族とゆっくり最後の1か月を過ごして良かったです。長崎市のやり方を早く取り入れて下さい。
- ・身近な人が亡くなった時には、自分の最期のことに思いをはせることはあっても、なかなか書を記すところまではいきません。でもこの講演を聞いて、元気な今だからこそやらなければと思う事が出来ました。とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・夫の両親は元気なころから自宅で延命治療をせずに最期を迎えたいと話していたので、二人共にそういう最期を迎えるが出来ました。改めて話し合いをすることが出来ればいいのですが、なかなか難しいかと思います。日頃からお互いにコミュニケーションを取りながら、どう最期を迎えるかを考えることがよいと思います。多くの人にACPのことを知ってもらいたいと思います。ありがとうございました。
- ・身内の最期の時、気管挿管をする時の状況がいつまでも心に残っています。本人の希望を元気なうちに話し合ったおく事の大切さを思いました。時の流れてその時その時の考えも変わる事もあるので、何回も話し合う事でしょうか。
- ・現実的な生死の講演で勉強になりました。一人暮らしの老人が多くなることで必要なテーマだと思いました。
- ・わかりやすかった。もうちょっと踏み込んでもらえばよかった。市内の医師でACPを話せる方は？

- ・私の思いを一人で書くだけでなく、参加者の方々と話し合う時間があつた方が、共有できると思ひました。スタッフの方が多数いらっしゃるので、講演会だけでなくグループワークがあつても良いなと思ひました。
- ・ACPに基づく事前指示書とエンディングノートの違いはあるのか気になった。事前指示書には法的強制力があるのかは知りたかつた。終末状態で受け入れてくる施設を多く知りたひ。遺言書やACPの作成に協力してくれる仕事の人を知りたひ。
- ・身内の希望は受け入れたいが難しい所ですね。でも私(本人)としては、無理な医療はしてもらいたくありません。
- ・自分の最期のことも考えるが、両親のことをまず考えてしまつた。ACPについて話すきっかけに本日の講演のことを話してみようと思ふ。
- ・終活という言葉をよく耳にします。何をすればいいのか考えます。身の回りの整理、お金のこと、子供に迷惑をかけたくない等々。年老いた自分の状態がどうなるのか分からないので漠然としか考えてません。これを機にパンフレットを参考にして家族と考えたいです。ありがとうございます。
- ・準備は大切だと思ふが、実際にはその時にならないと分からないし、考えもかわつていくと思ふ。
- ・医療について希望する事は自分なりにあるが、それを家族に伝える機会を持つことはやはり難しい。質疑にあつた文書の様式があれば、話し合うきっかけにもなるし具体的に考えることもできると思ふ。市や県で作成し、広く知らせてもらつたとありがたい。
- ・決定ではないもののやはりためらいがでます。話すことはしてますが、書き留めることは相手に負担をかけるのではないかと心配しています。
- ・自治会単位での講話活動をぜひ普及させていただきたいです。元気な内(70歳くらい)に家族と話し合う事が大変だと思ひました。施設利用(デイサービスや入所)について元気な内に家族と話し合う事もです。自分の最期についてかかりつけ医などに書面で作成することは、本人の意思が表明できない時必要だと思ひます、諫早市でも早急に取り組んで欲しいです。